

演講本日

No 681

第21卷 第22輯

南島發見開拓史話

竹下源之介氏講演

會協演講本日

旬刊

昭和十八年八月十九日發本
昭和十八年八月二十日發行
（昭和七年十一月一日第三種郵便物認可）

（大正十二年創刊）

海軍大將竹下勇閣下序

鈴木 經 勳 著

B 6 判 四二〇頁
價二・八〇 千一五

南洋探檢實記

偲べ！六十年前の南方の姿！！

本書は明治十七年より同二十四年まで、實に八ケ年の久しきに亘り、南洋諸島を跋渉探檢し血を以て綴りし我國最初の南洋探檢詳記。六十年前の南方の眞の姿は本書によりてのみ知ることが出来る。國民必讀の價值ある不朽の書。

本日講演協會版

南鳥島發見開拓史話

……………竹下源之介氏講演

◇南鳥島空襲と敵の東方反攻路

◇南鳥島の東京府所屬と水谷の借島

◇南鳥島の概要と發見の経緯

◇上瀧七五郎南鳥島の經營に従ふ

◇所謂グラムパス島探檢熱の擡頭

◇米國南鳥島を占領せんとす

◇南洋貿易家水谷新六奮起す

◇軍艦笠置の南鳥島派遣

◇偶然マーカス島(南鳥島)を發見す

◇南鳥島占領事件の結末と米國の魔手

◇天祐丸の沈没と水谷等の決死行

◇軍艦高千穂の派遣と南鳥島の其後

◇水谷等傳馬船にて太平洋を乗切る

南鳥島發見開拓史話

竹下源之介氏講演

九月二日 於日本講演協會

◆南鳥島空襲と敵の東方反攻路

大震災記念日の去る九月一日未明、中部太平洋心の孤島南鳥島は突如敵機の空襲を受けまして、この日わが本土には警戒警報が發せられました。今回南鳥島に來襲した敵機は戦闘機爆撃機合せて百六十七機に上り、勢くとも空母二隻より飛び立つたものであるといはれますが、同時に敵艦隊の陸上砲撃が行はれたところを見ますと、敵はかなり有力な機動部隊であつたものゝやうであります。これに對しわが守備部隊は電波探知機等により逸早く敵機來襲を豫知して敵を邀へ撃ち、地上砲火に依つて敵十二機を屠り遂に敵を遁走せしめたのであり

ます。

南鳥島は御承知のやうに本州を距る約二千軒の太平洋上に所在する一孤島であります。行政上では東京都の管轄下に在る小笠原島に屬してをりまして、東京都の一部分であります。従つてこの東京都の謂はゞ觸覺部ともいふ可き南鳥島に敵機が現はれたことは、單に敵の狙ふ神經戰術としてのみ看過することはできないのであります。今度の南鳥島空襲に依つて敵は南方のニューギニア、ソロモン方面、北方のアリユーション方面、西方の支那大陸よりする反攻路に加へて、新たに東方の中部太平洋方面から直接わが本土を窺はんとする態勢を示したものであり、この點甚だ重視さる可きであります。

敵が若しもこの中部太平洋方面に於てわが脆弱點を發見せんか、猪武者たる彼らは、勢に乗じて一舉にわが本土を衝かんとすることは、容易に考へられるところであります。勿論わが鐵壁の備へは彼らの無謀な企圖を斷じて許すものではありませんが、それにしても今後敵が、再び三たびこの南鳥島或は大鳥島、時によつては小笠原島方面に出現する可能性が濃厚になつて來たわけであります。斯くして太平洋の戰局は愈々全面的決戰の様相を示し、今後

如何なる情勢がこの方面に展開するか、遽かに豫斷を許さぬものがあります。

◆南鳥島の概要と發見の經緯

そこで本日は御委囑に依りまして私の専攻に屬する南方先覺者乃至海洋開拓者の事蹟を通じて、豫て調べてをりました南鳥島の發見・占領・開拓等の歴史的な經緯を一通り搔いつまんで御話申上げることゝ致します。この南鳥島のごことは今日まで餘り世間の方々の注意を惹かないで、その所在すらも一般には明らかでなかつた模様であります。或は今度の空襲で初めてこの島の名を知つた方もあるのではないかと思ひます。沉んやこの島がどんな經緯でわが領土に入つたかを御承知の方は極く僅かであらうと考へられます。多分、日清・日露戰爭時代のことを御承知の方々は御記憶があると思ひますが、この島は日露戰爭の起る少し前に、米國との間に占領争ひが起つて軍艦まで出動した問題の島であり、又明治時代を通じてわが民間志士が發見開拓し、わが版圖に入れた唯一の島であることも、この際は非國民に認識して置いて戴きたいのであります。

先づ南鳥島の概要を述べますと、この島は北緯二十四度十七分二秒、東經百五十四度三分に當り、即ち緯度に於ては南硫黃島・ラサ島・石垣島に等しく、又經度に於ては中鳥島（ガンドス島）や北千島の捨子古丹島などに等しいのであります。従つて南洋群島や大鳥島がわが版圖に入らなかつた明治時代に於ては、この南鳥島はわが太平洋の東南端に位してゐました。距離は東京灣外より約一千哩、小笠原島より約六百六十哩、島の形は二等邊三角形をなし周圍約一里廿丁、地勢は概ね平坦で最高所でも僅か十米、平均五米を出でない隆起珊瑚礁より成る小島であります。

この島は一八一四年米國の宣教師が發見したといはれ、元マーカス島若しくはウィークス島と呼ばれてをりましたが、それも極めて曖昧でありまして、明治三十一年わが版圖に入るまで、實に疑問の島として水路誌などにも僅かに二、三の航海者の報告が載せられてあるに過ぎなかつたのであります。明治十九年にわが海軍水路部から刊行された寰瀛水路誌第十五卷（實は一八七〇年倫敦より刊行された英人フィンドレーの北太平洋水路誌の抄譯）にも、この島は疑團島として記載され、一八六四年、布哇傳道船モーニング・スター號船長ゲレッツ

ト大佐の報告、一八六八年グビツド・ホードレイ號船長キルトンの報告などに依つて、其の所在が確められてゐましたが、前者はウィークス島なりといひ、後者はマーカス島と呼んでゐて、この兩島が果して同一のものであるか否かも不明であるといふ状態でありました。勿論そんな有様でありますから、この島は當時何れの國にも屬してをらない一個の貧弱な無人島に過ぎませんでした。

◆ 所謂グラムパス島探檢熱の擡頭

大體、この南島もさうですが、太平洋心にあるミツドウエーにしろ、ジョンストン島にしろ、クリスマス島にしろ、またわが版圖である大島島、硫黄島、南北大東島、ラサ島などにしろ、明治の二十年代乃至三十年代に至るまで多くは全く無人島で、その所屬すらも明らかにされてをらなかつたのであります。それでこれらの無人島に各國が眼を着けるやうになり、わが民心を刺戟した結果、漸くわが國に於ても海洋開拓熱—即ち無人島を探檢開拓してわが版圖に入れようといふ機運が擡頭して參つたのであります。而して明治二十年代より三

十年代に至る間がこの無人島探検熱の最も盛な時代でありました。

この時代に小笠原島を中心に、太平洋の無人島探検に熱中してをりました各國の冒険家を惹きつけたのは、所謂グラムパス島探検なるものでありました。このグラムパス島といふのは小笠原島の東南東約二百哩、北緯二十五度六分乃至四十分、東經百四十三度四十四分乃至百四十六度四十分に當り、二島乃至數島より成る一群の無人列島があり、面積は小笠原島と略々同じで天然の良港があり、島内には椰子其他の果實や樹木も多く、小笠原島に勝ることも劣らぬ良島といはれ、小笠原に寄港する外國船の者や歸化人など眞顔で評判してゐたのであります。前申しました寰瀛水路誌にも、このグラムパス島は疑團島として記載され、一七八八年船長メーリスの發見した島なりと云ひ、又有名な太平洋探検家ケルーゼンシュテルンもその位置を推測せりと云ひ、其他二、三の鯨漁船の報告等もあつて其の所在を信する旨記されてあります。

そこでこの問題の無人島グラムパス島を探検できたならば、小笠原島に勝るとも劣らぬ良港を得て南洋諸島との絶好の中繼港とすることができるといふので、各國人が血眼になつて

これを發見しようとしたのであります。又英國では、このグラムバス島を發見した者には、邦貨三十萬圓の懸賞金を贈ることになつたといふ風聞まで立つといふ譯で、一層冒險家の探檢熱をそゝりました。これに對してわが同胞が無關心でゐられる筈がなく、何しろ小笠原の東南僅か二百浬、而も小笠原以上の良島だと云ふのですから、之はどうしてもわが版圖に納めねば國辱ものだといふので冒險者が續々出かけることになりました。

◆ 南洋貿易家水谷新六奮起す

時にこれらの冒險者の中に水谷新六と云ふ者がありました。この水谷は嘉永六年伊勢の桑名に水谷清七の長男として生れましたが、幼少の時東京に出て呉服屋の番頭をしてゐるうち明治十三、四年頃、千葉縣久賀の同業服部新助と知り、互ひに内地商業の爲すに足らぬことを語り合ひました末、當時恰度わが歸屬が正式に決して移住者を歓迎してをりました小笠原島に渡つて一旗上げようと、僅か三百圓の資本で雜貨酒類を仕入れ、日本運輸會社の帆船に積込んで明治十五年父島に渡つて商賣を始めましたが、爾後引續き東京・小笠原島間を往復

して雜貨の販賣に當り、間もなく大海丸と云ふ百噸積みのスクーターを買入れ、新助の京橋西八丁堀の家に小笠原回漕店を開き、内地・小笠原島間を航海して多大の利益を收めてをりました。

併し間もなく同業者が現はれて、勢ひ競争状態になりましたので、兩人は更に新しい目論見を立て、當時小笠原島へ寄港する外國船が南洋ポナペ、グアムなどの島から毎船鼈甲、海産、蝶貝などの物産を齎すのを見て南洋貿易を試みようとして、先づ水谷は相陽丸といふ三十二噸の小帆船を嚮して、明治二十一年四月小笠原を出帆し、トラツク、ポナペ兩島に試航しました處、島民の非常な歓迎を受け、澤山の物産を積んで同年十月東京に歸ることができました。茲に初めて南洋貿易の有望なことが判りました。そこで水谷は服部と共に南洋貿易を始めることになり、貨物を買ひ集め種々準備を整へてゐる矢先、讒訴する者があつて密貿易の廉で告發され、相陽丸及び搭載貨物は差押へられ、水谷等は當局に召喚取調べを受けました。幸ひ密貿易の嫌疑が晴れて、水谷等は翌明治二十二年七月無罪となりましたが、之が爲に彼等の南洋貿易は一頓挫して了ひました。

そのうちに翌廿三年になつて例の有名な田口鼎軒の南島商會や横尾東作の恒信社が起つて前者は天祐丸を、後者は懷遠丸を、各々南洋に送つて貿易を始めましたが、水谷は横尾の恒信社に關係する一方、自ら快通商會を興し、二十四年春百四十噸の快通丸を借入れて再び南洋貿易を始め、第一航には遠く赤道以南のビスマルタ群島に向ひ、續いて第二航にはトラツクに向ひましたが、同年十二月同島附近の暗礁に觸れて沈没し、水谷以下の乗組員は辛うじて生命だけは助かりましたが、一方それと前後して服部新助の大海丸も小笠原で難破し、廿八年には新助の病歿に遭ひ、相陽丸も負債の爲め南洋貿易組合の金十社に引繼がれると云ふ有様で、慘澹たる状態となりました。

併し水谷は少しも屈せず、尙も南洋貿易に身を入れ、既に自己の資力に盡きたので、金十社の一員となり、同社の南洋部長と云ふ名目で、明治廿九年になりますと、同社の所屬となつた天祐丸に乘組み、自ら事務長兼船主代理としてサイパン、トラツク方面に向ひましたがこれより曩例のグラムパス島探検熱が盛となりますや、水谷は如何にしても自分の手でこの無人島を發見せねばならぬと、先づ時の小笠原島々司小野田元勲の援助を得て、明治廿六年

中グラムパス島探検船を送り、最初は代人を出して探検させましたが目的を達せず、その後二回も探検船を出しましたが矢張り失敗に歸しました。

◆ 偶然マーカス島(南鳥島)を發見す

併し水谷は念頭グラムパス島探検のことを一日も忘れず、その後南洋貿易の爲サイパン、トラック方面へ航海する度毎に、往復には必ずグラムパス島のあると云ふ北緯廿四度、東經百四十五度邊の海域を探つたのでした。

ところが明治二十九年の十二月のことでした。水谷は天祐丸でサイパンに寄航しましたが積荷の關係で暫く滯泊せねばならなくなつたので、これを機會に豫て心にかゝつてゐたグラムパス島を今度こそ發見しようと思ひ立ち天祐丸で探検に出かけました。

海圖を按じ經緯度を測りながら、渺茫たる太平洋のさなかを漂蕩すること實に十三晝夜、つひにそれらしき島影をも認めず、もうグラムパス島は存在しないものと斷念して、サイパンに引返す可く北緯廿四度、東經百五十四度邊に來かゝりますと、果しなくも一島を見出し

ました。一同雀躍して早速近づいて上陸して見ますと、この島は周圍僅か一里餘の小島で、良港どころか一も碇泊地に適した場所がなく、樹木も椰子以外には何もなく、豫て想像してゐたグラムパス島とは雲泥の差でした。それもその筈、海圖を按ずれば、この島は目指すグラムパス島の位置より更に東南東約四百裡に位するマーカス島、即ち現今の南鳥島でありました。

初め水谷等一同は失望しました。併し、見ればこの島は全島信天翁や其他の海鳥類で蔽はれる有様でしたから、水谷は大いにこの島に望みを矚し、海鳥を捕獲して羽毛を採集する計畫を樹て、一旦サイパンを経て小笠原に歸り、翌年三月、とりあえず小笠原より人夫八名を送つて捕鳥と漁業に従事せしめる一方、水谷は外務省に宛て、同島發見の届けと同時に同島借用の手續きをとり、茲に南鳥島經營の端緒を開くことになりましたが、以上申述べましたやうに、水谷の南鳥島發見はグラムパス島探檢の偶然的拾ひ物であつた譯であります。

因みにこのグラムパス島といふのは、其後も探檢者が出かけましたが、たうとう實體が判らず了ひになり、現在では全く海圖から除かれてをりますが、この島のことは多數の航海者

の報告もある通り、當時確かに存在してゐたに違ひありませんが、恐らく或る時期に忽然として海中に没し去つたものと思はれます。かういふ例は他にも幾つかあるやうです。

◆天祐丸の沈没と水谷等の決死行

さて南鳥島の開拓に着手した水谷新六は、翌明治三十年五月二十八日、天祐丸に雜貨を積込んで横濱を出帆、小笠原を経て三度び南鳥島に航し六月廿五日同島に到着、小笠原や八丈島方面から連れて來た捕鳥人夫十餘名を上陸させ、且つ之等の人夫の爲食糧其他を陸揚げしこの間既に三月以來採集した鳥毛二萬五千斤を船に積込んで三十日午後同島を出帆し、針路を小笠原にとり進航しましたが、折柄天候急變し暴風雨となりましたので、一旦南鳥島に引返さうとしました處、急潮の爲船は數哩も押流され、同夜八時頃同島東岸の岩上に觸れて船體を打ち碎き隘時にして沈没して了ひました。船主代理の水谷新六、船長の後備海軍大尉小林春三、運轉手の豫備海軍大尉早田六之助以下乗組員十一名は、僅かに附屬の傳馬船に乗り移り、三挺櫓を押立て、南鳥島に漕ぎつけ漸く生命だけは助かりましたが、天祐丸と二萬五

千斤の鳥毛は遂に海底の藻屑と化して了みました。

上陸した一行は已むを得ず、捕鳥人夫の食糧として陸揚げした軍用ビスケットや鳥肉を食べて日を送つてゐましたが、何分にも食糧には限りがあり、且つこの島は南洋航路とも隔絶してゐる絶海の孤島ですから、この儘で過せば遠からず一同餓死する外ありません。遭難後十日目即ち七月九日になりまして、一同評議の末、この上は傳馬船で小笠原島に渡ることに一決し、水谷は自ら傳馬船に乗組む冒険者を選びましたが、何しろこの傳馬船は長さ二丈三尺、幅五尺、深さ一尺八寸の小船でとても太平洋の荒波を乗り切れる代物ではありませんから、流石の船員達も云ひ合せたやうに尻込みしました。結局水谷と船員の松本彌吉（東京人四十四歳）安西金藏（千葉縣人、二十六歳）中山金之助（千葉縣人、三十一歳）の三人が行くことに決まりました。

そこで直ちに傳馬船の修繕に取掛り、海岸に漂着した天祐丸の帆布綿を縫合せて、傳馬船の舳艫と兩側を蔽ひ波除けとし、櫓三挺、楫一挺、檣帆、ボート用の直径五寸の羅針盤などを取入れ、食糧には軍用ビスケット百二十斤と魚鳥肉の乾したもの若干、又飲料水は、葡萄

酒樽に一石許り蓄へ、別に天水受用の樽をも用意しました。かうして九日の夜までに漸く出帆の用意が整ひました。十日は恰度金比羅さんの祭日ですから、幸先好しと明日出帆することに決め、九日夜は一同海岸で椰子の實を割つて別れの盃を交しまして、翌十日午前八時水谷等四名は決死の覺悟で傳馬船に乗組み小笠原島目指して出帆しました。

◆ 水谷等傳馬船にて太平洋を乗切る

かくて水谷等の傳馬船は南風に帆を孕ませながら、渺茫たる大海原を西北に向つて進みましたが、行くこと二晝夜にして西南の強風起り幅數哩に亘る黒潮が俄かに押寄せて來て、船は見る／＼この急潮の中に押流されて了ひました。風は益々強く、船體は木の葉のやうに翻弄され、遂に羅針盤の硝子を破られましたので、船員達は潮に浸してはならぬと、各自交代で羅針盤を肌につけ、浸水を汲み出しつゝ日夜懸命に働きました。十一日目に至りまして、食糧も食ひ盡し飲水も大方盡き、且つ晴天で天水も得られず、餓死線上に曝されましたが、既に船は小笠原を距る東北方七百哩の位置に漂流してゐることが判りましたので、最早小笠

原へ寄港する望みも絶え、この上は再び西北に針路をとり伊豆大島に向はうと決心しました。漸く十九日目の七月二十八日になつて、約三十哩の距離に二個の島影を認めましたので、

一同驚喜して船を近づけようとしたが、生憎逆風と日没の爲めに島影を見失ひ、二十九日朝に至つて、更に西方數十裡に前日より稍々大なる一島を見出し、これぞ目指す大島ならんと懸命に漕ぎつけようとしたが、矢張り逆風にて近づくことができませぬ。已むを得ず針路を北に轉じ、房州の鼻を目指して進むうち、遂に三十日午後に至りまして、房總の山影を認めることができ、一同手の舞ひ足の踏む處を知らず、同日夕刻勝浦灣口に近づき、折柄附近の出漁中の三隻の漁船に助けられ、翌七月三十一日午後六時、南島島出帆以來二十一日目に無事勝浦灣に漂着したのであります。

かうして水谷等が木の葉のやうな傳馬船で太平洋の怒濤を乗切り、無事故國に歸り着いたことが世間に傳へられますや、彼等の勇敢なる冒險譚は國民の間に非常な感銘と讚嘆を喚び起しますと同時に、水谷等が前年來秘かに發見開拓に着手した太平洋心の孤島南島島のごとく、遽かに世の注目を惹くに至りました。而して水谷等の今回の冒險行は、わが海國男兒の

意氣を發揚した世界にも珍らしい壯舉であると云ふので、一ヶ月後の八月三十一日、有志の發起で水谷一行の歡迎會が向島の植半樓で開かれましたが、當日水谷等は、太平洋を乗切つた時その儘の服裝で例の傳馬船に乘組み、その後には八隻の傳馬船が國旗や提灯や紅白の幕を張り樂隊を乗せ『水谷新六氏一行歡迎』と大書した大旗を押立てゝ之に續き、商船學校前から隅田川を溯りまして向島の會場に向ひましたが、之を見んものと大川端や橋上には見物人が押寄せて萬歳々々を連呼し、その光景は恰度かの郡司大尉一行が、墨堤から千島探檢の壯途に上つた時を髣髴せしめるものがあつたといひます。當日會場では發起人の天祐丸組員である金十社から水谷に賞狀賞品を送り、又日本海員掖濟會でも勇敢な船員三名を表彰し各々賞金を贈りました。

◆南鳥島の東京府所屬と水谷の借島

この水谷等の勇敢な行爲は、當時日清戰爭大勝利の餘焰未だ消えぬ國民の心裡に、改めて旺盛な膨脹熱を注ぎ込む結果となりまして、間もなくわが政府は東京府をして水谷の發見開

拓に着手した南鳥島を小笠原島の所管に入れ、帝國領土に編入したのであります。即ち明治三十一年七月十九日、内務大臣板垣退助は東京府知事に對し『北緯二十四度十四分、東經百五十四度に在る島嶼を南鳥島と稱し自今其府所屬とし小笠原島廳所管とす右訓令す』といふ政府訓令を發し、同月二十四日東京府知事肥塚龍は、東京府告示第五十八號を以て其の旨告示し、直ちに官報に掲載公布の手續を執つたのであります。これは豫て水谷の請願があつたからであることは勿論でありますが、又民間有志の熱心な勸説も與つて力あり、前申しました國民の意氣に投じた處置でありました。兎も角もわが政府が當時何人も想像し得なかつた太平洋心の孤島、而も海鳥捕獲以外に現實的利益の薄いこの南鳥島をば、何らの調査をも遂げずして、水谷の實測した處を唯一の手がかりとして帝國領土としたことは、全く破天荒と云つてもよい位の大英斷でありました。

一方、水谷は既に前年中（明治三十年）に外務省へ届出て同島を借用してゐましたが、今回東京府の所屬となりましたので、改めて府に對して同島租借願を出し、九月二十一日附を以て租借權設定の認可を受け、越えて十二月六日正式に向ふ十年間の貸渡認可を得たのであ

ります。其際水谷が提出した同島の地積概要は、總面積百八十六萬七千九百五坪（方十六町三十九間）内宅地三千四百三坪、畑地二千六百二十五坪、山林五萬千七百六十五坪、原野百六十八萬二千六百三十二坪、沿岸地十二萬千八百五十五坪でありました。

因みに水谷は前申しました冒険行の後、南鳥島に残して來た天祐丸船長小林春三大尉以下の身の上が氣がゝりになりますので、金十社の永勝丸（前の相陽丸）で南鳥島に向ふ豫定でありましたが、同船の修繕が捗らぬので、別にサイパン通ひの清水勝次等の持船虎丸と云ふ九十五噸の帆船を借受け、九月十一日横濱を出帆し南鳥島に向ひましたが、この間に同島に残留してをりました小林船長以下七名は、恰度同島に來合はせた外國船に便乗して、九月初めに小笠原を経て歸京することができたのであります。

◆ 上瀧七五郎・南鳥島の經營に従ふ

さて南鳥島の租借權を得た水谷は其後更に八丈、小笠原方面から人夫を送つて常に四、五十名乃至多い時は七十名以上の捕鳥人夫を使ひ鳥毛を採集し、之を横濱に持歸つて賣捌き、

三、四年の間にかんりの利益を得ましたが、偶々この鳥毛を買取つてをりました横濱の貿易商に上瀧七五郎と云ふ者がありました、この者は外國商館に出入してをりました處から、水谷の持參した鳥毛を扱ふ中に、之らの海鳥類の剝製を外國商館に賣込めば喜ばれるし、利益も多いだらうと云ふ見込みを立て、水谷に白燕・黒燕・ボーン鳥などを簡單な剝製にして持つて來て呉れれば、一羽二錢位で取引しようと申込みました。當時鳥毛は百斤に付何圓といふ値段で一羽の鳥毛は僅か三、四厘見當に過ぎませんでしたから、水谷は喜んで承諾し、明治三十三年九月兩人の間に一羽二錢五厘宛で十五萬羽の剝製を賣買する契約を取交はしました。

上瀧は間もなく人を南鳥島にやり、最初三萬五千羽を持歸りまして、之を外國商館に持込みました處、一羽二十五錢で取引できました上に、次回からは三十五錢に値上げし、やがて四十錢位の相場で取引されるやうになりました。かくて上瀧が剝製の賣込みで一躍巨利を博したと云ふ評判がパツと立ちましたので、之を聞き傳へた水谷は驚いて上瀧に談じ込み、契約解除を主張しました。結局上瀧より改めて七千五百圓を追償することになつて和議が成立

ち、明治三十五年三月までに契約残りの剝製を引渡すことになりましたが、これをきつかけに南鳥島の捕鳥剝製事業は水谷と上瀧の共同經營となりました。

其後水谷は明治三十四年九月、金十社の持船の矢丸で南鳥島に向ふ途中、暴風雨に遭つて遠くフィリッピンに流され、マニラ灣に入つて船體を修理し出船したところ、再び風濤の難に遇ひ香港に避難し、歸途三度び臺灣近海で難船して基隆に遁れると云ふ有様でありました。金十社では代船として明德丸を雇ひ南鳥島に向けましたが、同船も空しく洋中に漂流して途中から引返しました。

一方、南鳥島の捕鳥人夫も一時は七十餘名を算へましたが、亂獲の結果海鳥も年々その數を減じ勢ひ收入も減り、剩へ絶海の孤島生活とて榮養不良や脚氣症に罹る者が續出し、三十四年には在島者僅かに十一名に減じました。而も同年夏から三十五年春にかけて、同島は珍しい降雨續きの爲在島者十一名中五名まで病死し、島には水谷の代理人である片倉作二郎夫婦の外僅か四名が残るのみとなりました。かやうな有様で水谷の南鳥島經營は支障續出しましたので、間もなく水谷は上瀧七五郎と相談して同島の事業一切を上瀧に譲り渡し

同島の租借權だけ水谷が所持し、甥の片倉作二郎をして管理させることにして手を引いたの
であります。

かくて上瀧は其持船共和丸に二十七名の出稼人夫を乗せて明治三十五年三月末横濱を出帆
し、途中航路不案内の爲め小笠原に引返したりして五月頃漸く南鳥島に到着、一同を上陸さ
せて再び捕鳥剝製に従事せしめ、従來の在島者四名は同船で送り還しましたが、かくするう
ちに起つたのが、問題の米國の南鳥島占領事件でありまして、茲に再び南鳥島の名はわが朝
野の關心を呼び、同時に世界の視聽を集めることになつたのであります。

◆米國南鳥島を占領せんとす

即ち、明治三十五年七月十六日の東京朝日新聞に『米國の孤島占領計畫』と題して次のや
うな記事が載りました。

紐育來電に依れば、合衆國政府は近頃日本小笠原島の東南約五百哩にあるマーカス島占領
權を以て、キヤプテン・ローズヒル氏の組織せる遠征隊に附與したり。然るにマニラを發

し同島を経て桑港に歸着したる米國運送船シエリタン號の齎せる報告を聞くに、右遠征隊は其目的を達し得ざるべし。即ち同島には日本兵ありて其司令官は日本政府より附與されたる同島占領の命令を示して、シエリタン號の退去を命じたりと云ふにあり。之が爲め國務卿ヘー氏は東京駐劄公使バツク氏に打電して其報告を命じたり云々

これだけでは何のことかサツパリ判りませんが、續いてホノルル發の通信が同紙に届きまして、漸く米國の所謂孤島占領計畫なるものが判明したのであります。それに依りますと、マーカス島即ちわが南鳥島は今より十三年前一八八九年（明治二十二年）に米國商船々長アンドリユー・ローズヒルと云ふ者が發見上陸し、米國の國旗を樹て、同時に占領文を認めたる紙片を瓶の中に封じて地中に埋めて來た島であるが、右發見者であるローズヒルは最近ハワイの事業家を動かし、同島のグアノ（鳥糞）採集の目的でマーカス島グアノ會社を興し、取敢えずマニラに赴く運送船シエリタン號船長ピールスに頼んで、最近の同島の實況調査と、見本として同島のグアノ十噸内外を積んで來て呉れるやう依頼した。然るに同船が十四ヶ月前昨年五月マーカス島に立寄つた處、米國に先占權ありとする同島には、既に日本人が澤山

移住してゐて、數名の者は鐵砲を差向けて米人の上陸を拒絶したので目的を達せず引上げ、本月初めハワイ歸航と共にこの旨をハワイ政廳及び當のロイズヒルに傳へた。

これを聞いたロイズヒルは意外の感に打たれ、グアノ會社を興した手前もあり、如何にしても自己の占有權を全うすべしと、直ちに米國國務省に向つてマーカス島先占の事實を訴へたので、米國政府は彼に五萬弗の保證金を積ませて同島の占有權を與へた。ロイズヒルはグアノ會社の重役と謀つてマーカス島遠征隊を組織し、帆船ウオーレンス號に多數の武器とグアノ採集人夫を乗せて七月十日ホノルルを出帆し、マーカス島に向つたから、遅くも七月末には同島に到着するであらうと云ふのであつた。而してロイズヒルは出發に際し、「若しも日本人が同島で自分等の上陸を拒む時は、我々は米國々旗を先頭に立て武器を執つて飽く迄強行上陸を敢てするであらう」云々と決意のほどを述べたと云ふのであります。

◆軍艦笠置の南鳥島派遣

この報が一たび傳はりますや、日本の朝野は俄然色めき立ちました。何故なら、今回ロイ

ズヒルが米國政府から占領權を附與されたといふマーカス島は、既に前申述べましたやうに明治三十一年わが領土として南鳥島の名で東京府に所屬した島であつたからです。凡そ占領權には占領の意志公示、併領、移住、占領の繼續の四原則がありまして、其中のどの一つが缺けても不可であることは國際法に徴して明らかであります。日本は既にチヤンと右の原則に基く占領行爲を履んでゐるのに、問題のローズヒルは日本人より先に同島を發見し米國々旗を樹てたと云ふものゝ、未だ右の原則を何一つ履行してをらない。然るに右の事實を知つてか知らずか、米國政府はローズヒルの巧言を捉へて彼に占領權を與へ、あはよくば自國の領土にしようと企んでゐることが判りましたから、わが朝野が米國側の卑劣な行爲に憤慨したことは當然です。

勿論右の事情ですから、ローズヒルが如何に米國政府の尻押しで自己の先占を主張して見たところで、日本の領有權は最早動かすことができませんし、其點は少しも心配はないのであります。唯問題はローズヒル等の遠征隊が同島に押寄せて、在島の日本人と衝突するやうな事態を惹き起すと、勢ひ兩國間の紛争になることは必至なので、そこでわが政府も事件

を重大視しまして、直ちに軍艦笠置を同島に派遣することになり、外務省から書記官石井菊次郎（後の子爵）が政府の訓令を携へて同艦に搭乘し、七月二十四日横須賀を出港し南鳥島に急行しました。

笠置は航程四日の後、七月二十七日南鳥島の南岸に達し、直ちに端艇を下して石井書記官の一行及び將兵の一部は上陸しましたが、この絶海の孤島に突然帝國軍艦を迎へて驚喜感激したのは、同島の島守片倉作二郎以下二十九名の同胞であつたこと勿論で、一同は笠置派遣の來由を知つて、今更乍ら皇國が孤島の同胞を保護することの厚いのに感泣しました。扱て問題のローズヒルの遠征隊は、また影も形も見せてをりません。それで最初石井書記官は彼らの來るのを待ち受けて、政府の訓令を示し、彼らを取引らせる考で同島に約十日間滞在する豫定でありましたが、この島は周圍が悉く珊瑚礁で取巻かれ港灣は一もなく、且つ深海の爲、碇を入れる個所もないので、笠置は一行を下してから島の周圍をグル／＼周航してゐる有様で、到底永く滯泊することができません。それに問題のローズヒルの遠征隊も果して何時來るか判らないので、石井書記官は艦長の坂本一大佐と相談して同島守備の陸戰隊を置いて

て一先づ引揚げることになり、海軍中尉秋元秀太郎を駐劄隊長に任じ、十六名の水兵を上陸せしめ、石井書記官の携行した訓令を隊長に附して、笠置は二十九日午後歸航の途につきました。

◆南鳥島占領事件の結末と米國の魔手

扱て南鳥島に駐屯することになつた秋元中尉以下の陸戰隊は、笠置から陸揚げして建築材料で直ちに假兵舎を建て海軍旗を翻し、「大日本軍艦笠置派遣南鳥島駐劄隊」と大書した標柱を上陸地點に立て、警備に就きましたが、その翌日七月三十日午頃になつて一隻の小帆船がひよつこり島の西岸、西の端の北寄りの海岸にやつて來ました。隊長秋元中尉は早速部下數名を隨へて同船に向ひますと、案の定ローズヒル等の遠征隊を乗せたワイレン號でありましたから、同中尉は直ちに乗船してローズヒルに面會し、石井書記官より託された政府の公文書、艦長より同中尉への訓令英譯文及び東京駐劄米國公使バツクよりローズヒルに與へた文書を示し、本島占領の顛末を告げますと、見るからに山師然とした貌つきのローズヒルは、

忽ち失望と恐怖の色を現はし、全身をぶる／＼震はせながら、委細諒承の旨答へ、尙本船には地質動植物調査の爲め來島した二博士と乗組員中病氣の者があるので彼らの上陸を許して貰ひたいと哀願しました。

そこで秋元中尉は、一日五名宛の上陸と一週間の漸泊を許しましたので、彼らは二人の學者と三名の船員を上陸せしめ、わが駐劄隊の監視下で島内數ヶ所に穴を掘りグアノの調査を行ひ、又鳥類の採集など行ひましたが、隊長ローズヒルは日本兵の儼然たる守りに怖氣を起し、最初の意氣込みはどこへやら、自分は一步も上陸する事ができず、滞在一週間の後、八月七日錨を巻いて呆々の態で退散致しました。

かくてローズヒル等のマーカス島占領計畫はまんまと失敗に歸しましたが、彼はハワイへ歸ると性懲りもなく、再びグアノ會社の重役連と謀り、米國政府に右の顛末を訴へ、外務省を通じて日本政府に抗議を申送り、マーカス島占領權を回復し、若し其目的を達せざる場合は、同島のグアノ埋藏量より推算して四百萬弗の損害賠償を日本政府に要求しようと畫策しましたが、この時既に米國政府は日本の同島占領權を承認し、本件から手を引くに至りまし

たので、彼らの畫策は水泡に歸しました。

然し米國政府が本件に關し、日本の出様如何に依つては外交々涉に移してゞも同島の先占を主張し、之を乗取らうとしたことは明らかな事實で、米國は同島を海底電線の中繼所、若しくは貯炭所とする計畫があつたのでありますが、日本の意外に強硬且つ敏速な處置を見て遂に之を斷念したのであります。それが證據にこの事件の直後八月末、米國政府は南鳥島の東方にあるウエーキ(大鳥島)、ミツドウエーの兩島に巡洋艦アダム號を急派し、當時兩島に渡つて南鳥島同様に鳥毛やグアノの採集に従つてゐた日本人を、ハワイへ強制移住せしめる一方、米國政府は華府駐在日本公使に對し、兩島の占領權に關し申入れを行つた事實があるのであります。之に對しわが公使は、兩島に就いては別に日本として要求する處なく、唯在南鳥同胞の強制移住は糧當を缺く故善處して欲しい旨答へたのであります。南鳥島事件で疑心暗鬼した米國は慌て、ウエーキ、ミツドウエーを自己の手に收めて了つたのであります。

◆軍艦高千穂の派遣と南鳥島の其後

斯様な譯で南鳥島事件も一段落つきましたので、わが海軍は同島に残して來た駐劄隊を引揚げさせることになつて、八月二十二日軍艦高千穂が横須賀を抜錨しました。同艦は途中八月上旬爆發慘事のあつた伊豆鳥島に立寄り、二十八日午前十時南鳥島に到着、駐劄隊を收容して翌二十九日午後出發、小笠原に寄港の上九月五日無事歸着しましたが、同艦には南鳥島の實況調査のため派遣された地理學者の志賀重昂、帝大教授神保小虎、東京高師教授矢津昌永、農商務省技師金原信泰、同肥料礦物調査所技師吉田晋彦、朝日新聞記者上野岩太郎、時事新報記者宮本芳之助等が便乗し、亦例の水谷新六の後を繼いで同島の事業を經營してゐた上瀧七五郎も便乗しました。之等の學者、新聞記者等の實地調査によつて南鳥島の實況は初めて國民の前に明かにされたのであります。

さて、この占領事件の起つた當時、南鳥島發見開拓の功勞者水谷新六はどうしてゐたか云ひますと、彼はこの年六月から八月にかけて的矢丸で以前一度探檢して果さなかつたガンヂス島（中鳥島）やロスヂアルダイヌなどと云ふ無人島の探檢を尙も熱心に續けてをりました、八月下旬に小笠原へ歸つて漸く事件を知つたやうな有様でしたが、その不撓不屈の海洋

開拓精神には誰しも讃嘆の聲を惜しまなかつたのであります。其後高千穂便乗の肥料礦物調査所吉田技師が南鳥島から持歸つた土砂標本に依り、燐礦研究で有名な恒藤規隆博士が分析の結果、良質のグアノ燐礦が認められ、之が世間に發表されますや、果然各方面から同島の礦區權利獲得運動が起りましたが、結局借地權を有する水谷の權利が認められたことは當然でありまして、後同島のグアノは加納子爵の經營された全國肥料取次所の手で採集されるやうになりました。

南鳥島の上陸點近く、今もその名を留めてをります水谷村は、即ち志士水谷新六の功績を傳へる唯一の遺蹟であります。尙南岸の石井浦は石井書記官に、西の端の笠置岬は軍艦笠置に、東南端の坂本岬（巽岬）は笠置艦長坂本大佐に、北の端の黒井岬は同艦副長黒井中佐に因んで各々名づけられたものであります。茲に南鳥島の過去を概観しまして、現在敵襲下敢然太平洋の守りに任じてをります同島の皇軍を遙かに想像致します時、洵に感慨禁じ得ぬものがあるのであります。（拍手）——終——

時論

ニューギニア探検隊の成果

世界にたゞ一つ取り残された暗黒境の資源開發のため、わが學界の新鋭を總動員してニューギニア政府が組織した「資源調査學術探検隊」は現地到着以來〇ヶ月、前人未踏の密林を突破し言語に絶する勞苦に堪へ、世界に誇る輝かしい成果を収めてこのほど第一次の調査を完了した。

その結果はオランダが數次の調査によつて資源なしと放棄したこの暗黒境の各地から勝ち抜くために必要な重要資源が續々發見されたのみならず、世界の暗黒境の全貌がこゝに明かとなつてきた。

ニューギニアにはかつて蘭印學術協會、オランダ陸軍探検隊、アメリカのアーチボルト等の各探検隊が數次に亘つて大規模な探検を行はれたが、オランダの報告によるニューギニアには火成岩地域が少いため金屬資源は貧弱なりとの定説を見事覆して金屬

資源が相次いで發見された、石炭のごときもオランダ調査隊の發見しえなかつたところから數箇所良質のものが發見され石油は普通砂岩層に含有されてゐるのが常識だが、こゝでは珊瑚礁中に含有されてゐる事實が突きとめられ、オランダの調査よりも廣範圍にわたつて産出することが明かとなつた。

これと共に西ニューギニアの地質構造が明にされたことも大きな學界の收穫である、ニューギニアは全土珊瑚礁から出來上つてをり、今から約廿萬年前第三紀に六千メートルの海底にあつたものが隆起して海拔五千メートルの高山となつたもので、現在雪を頂く中央山脈のカールステンツ山頂には、當時の海底の粘土が残つてゐるほどで、随つてニューギニアには地球の出來た最初のころの古い時代から現在までの各時代の珊瑚礁があり、珊瑚礁の自然博物館の觀がある。この事實から熱帯地質、熱帯地下資源の研究は珊瑚礁の研究を外にしてはあり得ないといふことが明かにされたのも南方科學の行手に一大光明を投ずる收穫であらう。

編輯 余 瀝

◇去る九月一日未明、本州を距る二千軒、太平洋上の一孤島南島島に、敵米機一戰爆延數

百六十七機が來襲し、久し振りに本土に警戒警報が発令せられた。現在に於ては同島を知らぬ者はないが、この前第一回の空襲を受けるまでは、知とぬ人も相當多かつたと思はれる。

◇それも無理はない。一小孤島で産業上、さして見るべき物のない土地は、平和である限り、人々の目にも耳にも觸れないのが常である。それが一度戦端を開くや、我が前線基

地とし、防禦の第一線としてそれこそ不沈の空母として重要な役割を果すのである。北に東に南に點在する我が島は、皇國を守るべく天與の第一線基地である。

◇我に有利なるこの基地は敵にとつては最大の障壁である。北に南に、殊にソロモン方面に於ける敵の必死の反攻こそ日本々土攻撃の足場を得んとする米國の野望の現れである。皇國を守るこの洋上の一孤島南島島は何時如何にして發見され、我が領土となつたか、茲にその經過を明かにして先人を偲び、孤島を守護する將士の勞苦を謝し、武運の長久を神かけて念ずる次第である。

毎月三回(十日・二十日・三十日)發行

普通購讀會員

一ケ年一金六圓

特別會員(本會主催購讀會能談會ニ出席ノ優待アリ)

一ケ年一金拾圓

申込は直接本會又は支部へ。

會費は總て前金に願ひます。

送金可成振替を御利用下さい。

昭和十八年八月九日納本

昭和十八年八月十日發行

④【定價二十錢】

東京都芝區琴平町虎ノ門會館

發行編輯 兼印刷人 宗高松太郎

東京都京橋區銀座四ノ四

印刷所(東京株式會社) 細川活版所

發行所 日本講演協會

電話芝(43) 一三一一番

振替東京七三二四〇番

會員番號一三三五六九

昭和十八年八月十九日納本
昭和七年十一月一日第三種郵便物認可

（毎月三回 十日・廿日・卅日）發行

日本講演 第六百八十二號

